

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 14 日現在

機関番号：32808

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：平成 22 年度～平成 24 年度

課題番号：22530883

研究課題名（和文） 保育園の園内研修を保育の質という観点から分析する研究

研究課題名（英文） The research of analyzing training in nursery from a viewpoint of the quality of early childhood care and education

研究代表者 松永静子（MATSUNAGA SHIZUKO）
白梅学園大学 子ども学部 准教授

研究者番号：70551563

研究成果の概要（和文）：

本研究は、保育所における園内研修の意味について、「保育の質」という視点からアクションリサーチ的手法を使って分析した。園内研修のタイプは、映像視聴型、映像交流型、エピソード記録型、プロジェクト型の 4 種類である。園内研修を積み重ねることによって、保育が改善されるだけでなく、保育者としてのアイデンティティや同僚性が育っていった。以上の結果から、各園にて園内研修を自立（律）的に行うことは、保育者の専門性や保育所における保育の質を高めるうえで重要であると言える。

研究成果の概要（英文）：

The study examines the effects of training in nursery from a viewpoint of the quality of early childhood care and education by action research. Training nursery are four types(video seeing, video exchanging, episode writing, project). We are participated in nurseries at the position of observer. And the training times and interviews of nurseries are recorded by video camera. In addition to it, question paper of investigation for “actual conditions of training” and “effects of training” are conducted. As a result we found two facts. One was to raise early child care and education. The other was to become to have identity as a child-care worker and respect coworkers. From the above we suggested the effects of training in nursery for raising the quality of early child care and education.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
22年度	1,100,000	330,000	1,430,000
23年度	700,000	210,000	910,000
24年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：保育学

科研費の分科・細目：社会科学（教育学）

キーワード：保育所、園内研修、保育の質、自立（律）

1. 研究開始当初の背景

保育所保育指針の改定にともない、日本全国の保育園では園内研修が義務づけられた。8時間保育を標準とする保育園では、シフト体制による勤務体制により、すべての職員が研修に参加することは困難である。また是認参加できるように保育時間外に研修を行うには、残業手当等の問題もあり、運営上の難しさがある。それ以外にも様々な要因が絡まりながらも、現在、各園では日々の保育を改善するために、園内研修を積極的に導入しようとしている。

しかし研修の内実をみると、多くの園では外部講師による講義型の研修を採用している。これは、自らの研修テーマに即し、大学の研究者等を招き、テーマに即した話を聞くというスタイルの研修である。この研修スタイルの短所は、参加者が話を聞くことが中心になることから、研修自体が受け身的になるという点である。また話を聞くことに満足してしまい、それが日々の保育における実際の改善になかなかつながらにくいという点である。

したがって従来の研修スタイルを大切にしながらも、日々の実践的課題を直接的につながり、保育の課題を改善していく研修スタイルを取り入れることは重要な課題である。また日常における保育の実践課題を解決していくことは、それこそまさに保育の質を高めていくことに直結するものである。またそれは、保育者自身にとって自らの仕事に対する自信や有能感を育てることに、また職場で同僚が抱える問題を共同で考えることにより、人間関係のあり方にも影響を与えると予想される。したがって、保育者が主体的に参加し、日常の保育における課題を解決していくための実践性をもった自立（自律）的研修は、これからますます求められるであろう。

2. 研究の目的

そこで本研究では、保育園における自立（律）的な園内研修について、アクションリサーチ的手法を取り入れて、保育の質という観点から改めて考えることを目的とする。

具体的には自立（自律）的な研修として、本研究ではプロジェクト、映像視聴、映像交流、エピソード記録の4タイプに注目する。それぞれの研修方法を取り入れた園において、実際に研修がどのように進められ、それとともに保育や保育者の意識等が変化していったのかを探る。

3. 研究の方法

3年間にわたる研究計画の概要（平成21年～平成23年）は、表1の通りである。研修方法としてプロジェクト型研修を取り入れ

たのが1園（大阪O園）、映像視聴型研修が2園（神奈川県K園、埼玉県A園）、映像交流型研修が4園（東京都S園、W園、OK園、OD園）、エピソード記録が1園（C園）である。研修テーマについては、各園が今おこなっている状況によって決定される。

調査者は、各園の研修に参加し、その様子をビデオカメラで撮影する。また随時、保育者にインタビューを行い、研修についての感想等を聞く。それらの記録をすべて文章化する。さらに各年の終わりには、質問紙調査を行う。それらをデータとして、園内研修を通じた保育の改善や保育者の意識における変化等を分析する。

なお調査者は、研修への参加に際して、あくまでもオブザーバーの立場にたつようにする。その理由は、保育現場が主体的に園内研修を進めるうえで重要であると考えていることによる。

それと同時に、園内研修に関する質問紙調査を行う。調査対象は、平成22年度が園長150名（回答率30.0%）、平成23年度が保育者226名（回答率45.2%）である。なお保育者の回答者については、経験5年以上の者に限定する。施設長調査の内容は、研修の実施状況（参加者、時間、時間帯、内容、方法等）に関する項目が主である。保育者調査では、実施状況（施設長回答）に加えて、研修に対する振り返り（満足、テーマの魅力と希望、発言頻度、役立ち、自己の成長、同僚との会話等）の項目もある。分析は、各質問項目について回答を単純集計したうえで、研修に対する満足度の高低とテーマの魅力等をクロス集計する。また保育者が希望する園内研修について自由記述欄もあり、KJ法によって分析する。

表1 研究計画

	平成21年	平成22年	平成23年
プロジェクト型	0園	0園	
映像視聴型		K園、A園	
映像交流型	S園-W園	S園-W園 OK園-OD園	S園-W園
エピソード記録型	C園	C園	
園内研修調査		施設長	保育士

4. 研究成果

各園において自立（自律）的に園内研修を進めていった結果、研修方法の違いに関係なく、どの園においても自ら設定した保育課題を確実に改善していった。それと同時に、映像等を通じて保育者自身が、子どもへのまなざしや理解力、実践力などが変わっていくこ

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

汐見稔幸、村上博文、松永静子、保坂佳一、志村洋子、乳児保育室の空間構成と“子どもの行為及び保育者の意識”の変容、保育学研究、50巻、2012、64 - 74

[学会発表] (計6件)

松永静子、汐見稔幸、保坂佳一、村上博文、保育の質を高める自立的な園内研修—交流型研修の開発とその課題—、日本保育学会第65回大会、2013

村上博文、松永静子、保坂佳一、汐見稔幸、保育の質を高める自立的な園内研修—保育者の声から—、日本保育学会第65回大会、2013

松永静子、村上博文、汐見稔幸、保坂佳一、3園交流型園内研修の試み—乳児保育におけるアクションリサーチ—、日本保育学会第64回大会、2012

松永静子、村上博文、汐見稔幸、保坂佳一、交流型園内研修の試み—乳児保育におけるアクションリサーチ—、日本保育学会第63回大会、2011

SHIZUKO M.、HIROFUMI M.、TOSHIYUKI S.、Group Care of 0-Year-Old Children Cultivated in Japan OMEP, 2012

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

松永静子 (MATSUNAGA SHIZUKO)
白梅学園大学・子ども学部・准教授
研究者番号：70551563

(2)研究分担者

村上博文 (MURAKAMI HIROFUMI)
富士常葉大学・保育学部・講師
研究者番号：30612139

汐見稔幸 (SHIOMI TOSHIYUKI)
白梅学園大学・子ども学部・教授
研究者番号：70146752

杉山貴洋 (SUGIYAMA TAKAHIRO)
白梅学園大学・子ども学部・准教授
研究者番号：10277709

源 証香 (MINAMOTO SATOKA)
白梅学園短期大学・保育科・講師
研究者番号：00460288

(3)連携研究者

()

研究者番号：